

早稲田大学 人間科学部 英語 講評

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問3題は例年通り。設問形式も変わっていない。〔Ⅰ〕に関しては、英文の総語数はやや減少、英文の内容、設問の難易度もやややさしくなったと言えそうだ。ただ、相変わらず悩ましい選択肢も少なからずあった。〔Ⅱ〕に関しては、基本的には難問と呼ばれる問題が多々あって、年によっては比較的やさしかったり、昨年のように難問だらけになったりと紆余曲折を経てきたが、やっと良問ぞろいで受験生の実力をしっかり発揮できる大問となった。この問題を作られた人間科学部の先生方に敬意を表したい。〔Ⅲ〕に関しては、昨年よりやや解きやすくなったと言えよう。そうは言っても、正誤問題はそもそも解きにくいのが世の常なので、正解を出すのは相変わらず結構大変だ。気がつく力が重要な大問。全体的には〔Ⅱ〕が劇的に易化し、〔Ⅰ〕と〔Ⅲ〕も少し楽になったので、昨年よりかなり得点しやすくなったと言えよう。今年度は〔Ⅱ〕でありあまり差がつかず、〔Ⅲ〕で少し差がつくであろうが、やはり読解の〔Ⅰ〕の出来が合否に左右すると言えそうだ。65%程度が合格最低点だと考える。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	英文読解問題	<p>比較的短い8題の読解問題。例年通りだ。分量は昨年より少なめ、レベルも昨年より少し簡単になったと言えそうだ。テーマに関しては、以前は自然科学系が断トツが多かったのだが、最近は社会科学系と自然科学系のどちらかが隔年で多くなる傾向がある。設問は内容を問う問題で、What や How、Why、Which など始まる疑問文に対して正解選択肢を選ばせる問題(今年度は下線部が引かれているものが2つあった)。今年度も All of the above、None of the above、Not enough information given の選択肢が入っていた。この種の選択肢が多いということは、他の選択肢をすべてしっかり検討してみないといけないわけで、時間がかかる設問ということになる。リードの部分に What is the main idea of this passage? や What is the best title for this passage? が多いのも例年の特徴だが、今年度は1つしか出題されず。テーマとしては、専門的な内容の英文もあり、知らない単語もあるだろうが、細部にはこだわらず、いかに要旨をとらえるかがカギとなる。解く者の宿命だが、あまり正解にこだわると時間がどんどん過ぎていく。時間配分をしっかりと頭に叩き込んでおきたいものだ。本当に紛らわしく正解を出すのに困る問題もあるので、3割強は落としても仕方ないと思って取り組もう。</p> <p>具体的に一つだけ見てみる。</p> <p>3. <u>What is NOT increased through the use of online education?</u></p> <p>(C) Enrollment</p> <p>該当箇所: ~ the University of Central Florida (UCF), a school <u>with an extensive online catalog, can serve 66,000 students due to that catalog as opposed to the 40,000 its physical campus can accommodate.</u></p> <p>enrollment 「登録」という表現は直接書かれていないが、 の部分が enrollment の増加ということになる。内容真偽問題において、直接その語が書いてなくてもそれが見える力をつけるのがいろいろな意味での総合力ということになるのだろう。</p>	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅱ〕	空所補充問題	前置詞を入れさせる空所補充問題。今年度は昨年に比べて大幅に易化した。入試に頻出の熟語が多かったのが最大の特徴だ。27、29、31、32、33、35、37、39は基本熟語と言えそうだ。call off～「～を中止する」aside from～「～の他に」on account of～「～の(理由の)ために」at length「詳細に」in the face of～「～に直面して」bear in mind that S' V～「～であることを心に留めておく」conform to～「～(規則など)に従う」consent to～「～に同意する」となる。それに対して26、34、36、38はやや難しい程度。28、40はできなくても仕方ないかもしれない。30は come of age「成人になる」を知っていれば正解は出る。今年度の NO WORD は1、過去に1の時も3の時もあったが、今までは2が一番多いはずだ。覚えておくといいだろう。昨年の問題なら5つできれば上出来と言っていたが、今年度のレベルなら10は目指さないといけないであろう。	やや易
〔Ⅲ〕	正誤問題	難易度は昨年よりやや下がった印象だ。すぐに間違いが見える問題はいいのだが、そうでないところで差がつきそうだ。誤り箇所として狙われたところは、go to abroad→go abroad, Has it not been for→Had it not been for, hesitate asking→hesitate to ask, spreads→spread(過去形), entered→attended, considerable→considerably, didn't meant→didn't mean, keep us informing→keep us informed, explain you→explain to you となる。品詞、語法、文法のいろいろな分野から出題されているが、例年動詞に関連したものが多し、今年度も多かったのは間違いない。NO ERROR は今年度は1つであったが、例年は2つが多いことを覚えておこう。とにかく、昔よりやさしくなったとはいえ、やはり正解を出すのは結構大変だ。見抜く力を根気強くつけないとなかなか解けない設問だ。他の受験生もそう簡単には正解できない大問なので、6問程度の正解を目指そう！	標準